

見学報告書

報告者	多和田 鶴稀 3 ping tee
訪問日時	2018/11/08 14時～17時
訪問先	NTT-WE マリン

内容・感想

1、NTT-WE マリン紹介

- ・NTT-WE マリンについての紹介や、敷設船の紹介。
 - ・NTT-WE マリンの敷設船には、主に敷設を行う「SUBARU」と、主に国内ケーブルの保守を行う「きずな」がある。
- 「きずな」に関しては、敷設船の用途以外に災害対応機能が備わっている。それは、災害時に臨時携帯基地局設置可能な機能や、電力供給機能、衛星利用による通信機能などである。実際、最近では北海道胆振東部地震や、台風 24 号による災害時にコンテナに物資を積むなどして災害対策活動に積極的に参加しているとのこと
敷設用途以外にも災害対策機能が備わっているとは思ってなかったため感激した。

2、ケーブルや積み荷作業見学

- ・船にケーブルを積み様子や実際のケーブルなどの見学
- 実際海底ケーブルを見ると意外と細くて、とても驚いた。個人的には、沖縄から南大東までの予備ケーブルなど、地元のインフラを支えている物の実物を見ることができたため、とても貴重な経験になったと思う。

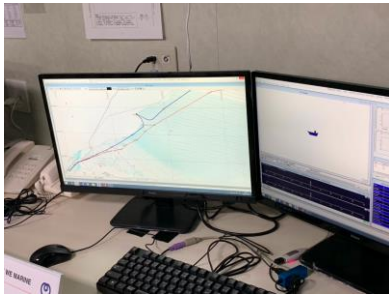


3、敷設船見学

- ・「きずな」の船内見学

船内にはアナログ計だけでなく、ハイテクなレーダやナビ、DPS(自動船位保持装置)などがあり想像を超える設備が整っていた。また、敷設支援システムという、海底ケーブルを敷設する前に、敷設シミュレーションを行い、その結果と実際の予想着底位置の差をリアルタイムに補正するような機能も揃っていて自然摩耗に強い敷設を行っていることに驚いた。その敷設支援システムを見ると、急激にケーブルが曲がっているような線が入っておりそれについて問うと、

障害復旧時にケーブルが伸びた部分を寝かせる作業を行なっているとのことで障害復旧はかなり大変なことだと感じたとともにもっとコストを抑え直線に戻す技術がないかと考えさせられた。ケーブルを積むタンクもとても広くて驚いた



4、資料館見学

・海底船資料館見学

海底船資料館はレンガ造りのとても歴史を感じる外観だった。

この資料館では様々な海底ケーブルの種類や歴代の敷設船の写真などが展示されていた。

中でも興味を惹かれたのは、台湾への海底電信線敷設を目的として作られた沖繩丸という敷設船である。これは日本が保有した最初の本格的な海底ケーブル敷設船で船首からケーブル線を敷設するものだった。



5、海底ケーブル実用例鑑賞

・夢の扉+にて放送された「緊急地震速報を30秒早く！海底の新観測網で命を救え！

世界最大級リアルタイム観測～より早く正確に地震津波情報を」を鑑賞

日本海溝付近の海底に150個の観測装置を置き総延長5700kmの光ファイバーケーブルで結ぶというプロジェクトのもので海を超えた通信目的でない海底ケーブルの用途をみることもできとても考え方の幅が広がったと思う。